

# 令和5年度 社会福祉法人八康会 事業報告

## 総 括

平成10年8月に特別養護老人ホーム、デイサービスセンター、ケアハウス、在宅介護支援センターを開設した当法人は、その後ヘルパーステーションや居宅介護支援事業所などを開設し、久御山町内の中核的な施設として地域との関わりを深めながら事業運営を行ってきた。

令和5年9月1日付で、デイサービスセンターの定員30名を1単位制とすることで、事業の効率化や利用者の利用目的および時間などを選択できる体制を整え、より一層のサービス向上に努めた。令和元年度から取り組みをはじめた外国人技能実習制度の活用から特定技能など外国人採用などの取り組みに繋がった。又、実習生に対する日本語教育の充実を図り、順調に日本語能力試験（JLPT）「N2」合格や介護技術の習得ができており、現在、技能実習生2期生の受け入れを行っている状況である。

令和5年度事業計画における重点項目と事業の実施結果は次のとおりである。

### （人財の確保・育成のための環境整備）

全国的にも介護職員の人材不足が大きな課題となっているが、インターネットによる求人や人材紹介、新聞広告やチラシ作成・配布、ハローワーク求人などを活用し、10名の採用に繋がった。又、令和元年度から取り組みをはじめた外国人技能実習制度の活用により、外国人人材の受入も積極的に行い、2名の特定技能外国人採用に繋がった。技能実習生に対する日本語教育の充実を図り、順調に日本語能力試験（JLPT）「N2」合格や介護技術の習得ができています。現在、技能実習生2期生の受け入れを行っている。

職員の離職防止を含めた対応にも重点的に取り組んだ。「京都府福祉職場組織活性化プログラム」職員アンケートの活用や独自に福利厚生に関するアンケートを実施し、面談などで意見を聞き取り、ワークライフバランスに配慮した働きがいのある、魅力ある職場づくりに取り組んだ。又、当法人は、安心して働ける職場であることを示す「きょうと福祉人材育成認証制度」の認証事業所であり、今後も職場の魅力向上と人財の育成及び定着に努めたい。

### （安心・安全な利用者サービスの提供）

各事業所においては、令和5年5月に5類感染症に移行されたが、コロナ禍における利用者の命、尊厳を守る行動、一人ひとりが楽しいと感じる暮らしと、健康で生きがいをもって日々の生活ができるように、サービスの質の向上を図ることを第一に事業展開を行った。又、利用者満足度について

ては、年1回アンケート調査を実施し、寄せられた意見に対しては、各事業所内で検討し、改善に繋げている。なお、今年度は、訪問介護および居宅介護支援事業所において、第三者評価事業を受診し、サービスの自己評価を実施することで、より質の高いサービスに繋がる見直しを行った。

高齢者に対する虐待については、各事業所内および法人全体の身体的拘束適正化委員会・虐待防止委員会を毎月定期的で開催し、職員への全体研修などを通じて、不適切ケアなどの改善や高齢者虐待の未然防止に努め、組織をあげて積極的に取り組んだ。

ハラスメントの防止については、利用者の生活および職員の職場環境が害されることを防止するため、ハラスメントに関する規程および内外部の相談窓口などを利用者や職員に周知を図ることで、一人ひとりの認識を高めていくことで、適切な環境を維持できるよう努めた。

### **(危機管理システムの強化充実)**

各種リスクマネジメント対策の強化や事業を継続的に実施するための取り組みを強化することが求められ、久御山町消防署の指導の下、消防総合訓練を実施し、普段からの自衛消防の初期対応の強化や安全な避難誘導訓練や消防機器の点検および避難経路の安全確認など、緊急時の対策強化を継続し取り組みを行った。災害などの緊急事態に遭遇した場合に、被害を最小限にとどめて事業継続、早期復旧を行うことができるよう備えることが必要であり、災害時のBCP(事業継続計画)を策定した。今後、訓練など繰り返し実施することで、BCPの見直しを図っていく。

新型コロナウイルス感染症対策では、令和5年5月8日から「5類感染症」となったが、感染後の重症化リスクの高い利用者が多く、感染拡大防止対策が大きく緩和できる状況になく、引き続き、施設内でのクラスター発生防止対策を講じた。令和5年9月と令和6年1月に特養施設内でクラスターが発生し、約1箇月後に終息宣言に至るものの、この間、感染拡大防止対策のため、利用制限が発生し稼働率への影響が大きく生じた。現在も感染対策に配慮しながら面会を実施するなど利用者や職員の命を守る取り組みを最優先に取り組みを継続している。

### **(事業経営の安定化、ガバナンスの確立)**

経営面では、各事業において年度当初から目標稼働率には及ばない状況が続いた。特別養護老人ホームにおける入院者数増加やコロナ感染症の施設内クラスター発生に伴う感染拡大防止のため、退所者発生後の新規入所者の受入までの期間が長期になり、空床期間の短縮が図れなかったため、併設のショートステイを含めた稼働率は、目標に達しておらず課題は残っている。通所介護については、定員30名を1単位制にしたことで、利用者の利用目的や時間などを選択できる体制が確保でき、稼働率の向上に繋がった。又、電気代や物価の高騰など、あらゆる分野において経費の削減を徹底し、収益増に向けた取り組みの強化が必須である。

事業運営の適正化を図るため、各事業において法令遵守の状況を定期的に確認し、介護報酬請求の誤りや加算算定などの不適合事項の有無を確認するなど行うことができた。各事業の運営方針を職員一人ひとりが理解し、事業計画の取組状況の見える化を図り、業務を遂行することができた。

### （地域貢献事業の展開）

定例の久御山南病院との合同まつりを「秋まつり」として再開することができ、地域住民参加のマルシェや各種団体による認知症啓発活動、地域とのつながり再構築の活動および町内民生児童委員研修会を開催するなど多方面において、活動することができた。今後も個人や関係機関との連携・協働を進めることで、地域住民との交流を深め、地域とともに暮らすという意識を高め、社会福祉事業だけではなく、制度外のニーズにも対応することなども期待されていることを認識し、久御山町社会福祉協議会や他サービス事業者などと連携しながら、さらに取り組みを進めていきたい。

今後も、社会福祉法人の責務としての「地域における公益的な取組」を進め、地域に信頼される施設づくりを目指すことが重要である。

## 1 特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）

定員 60名

利用者一人ひとりに寄り添った介護の充実を図ることに重点を置き、個別処遇計画に基づく個別ケアを中心にサービス提供を行ってきた。職員の負担軽減を考慮しながら、毎月のリーダー会議やフロア会議の中で業務の見直しや改善を行い、利用者と共に過ごす時間の確保や個別ケアの充実に努めた。サービスの質の低下を招くことなく一定の効果はみられたが、介護職員の業務負担軽減など離職防止への取り組みは継続中である。

職員の資質向上については、各委員会（事故防止、感染症対策、身体拘束廃止、虐待防止、サービス向上、褥瘡予防対策）の主催や法人研修企画委員会による苑内研修を定期的に行い、職員の自己研鑽への意識や資質向上に繋げることができた。今後も継続し、個々のサービス内容の見直しを進め、よりよいサービスの提供を行う。

### （1）利用状況

施設の利用状況は、表1のとおりである。令和5年度の年間延べ利用者数は、20,284名（前年比－204名）外泊算定者を合わせた1日平均で55.4名（同－0.7）、ベッド稼働率は92.3%（－1.2%）。平均要介護度は4.0であった（前年同様）。

入退所状況については、10月から1月にかけて、入院者の増加や逝去に伴う退所者が続き、

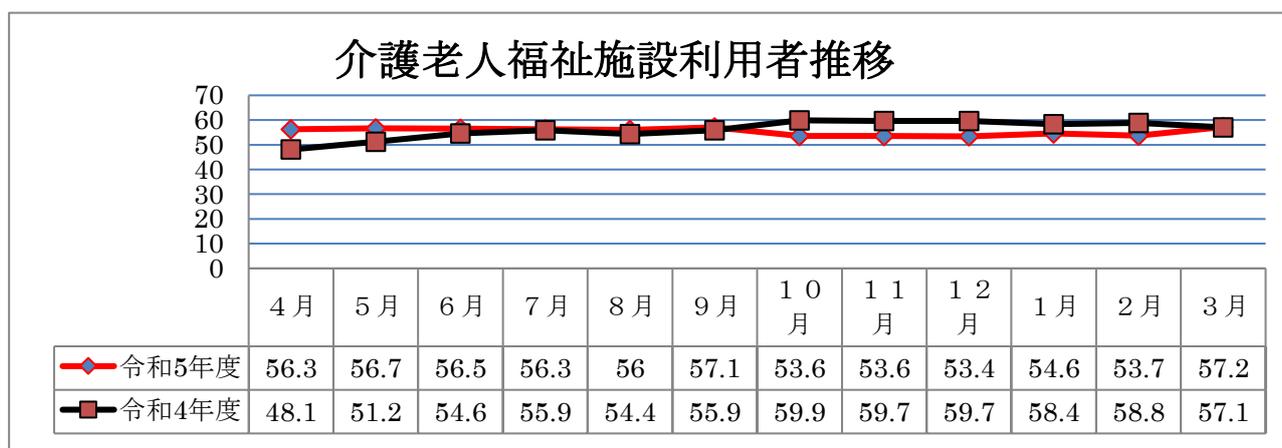
コロナクラスター発生などもあり、新規入所がスムーズに進められなかったが、終息宣言直後から入所に向けた準備を進め、2月と3月で7名入所できた。

入院日数については、肺炎や骨折等での入院が長期化するなどもあり、年間で1,020日（前年比+210日）と昨年度と比べ増加している。令和6年度は、日常の健康管理や入退院時の医療との連携、誤嚥性肺炎のリスクを軽減し、入院日数の減少を図り、稼働率向上に繋げていきたい。

表1 介護老人福祉施設の利用状況

特養	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計	
令和5年度	延利用者数	1689	1757	1694	1745	1736	1714	1662	1607	1656	1693	1557	1774	20,284
	稼働日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
	1日平均(名)	56.3	56.7	56.5	56.3	56.0	57.1	53.6	53.6	53.4	54.6	53.7	57.2	55.4
	入院日数	63	103	106	90	115	18	70	121	148	61	77	48	1,020
	稼働率%	94%	95%	94%	94%	93%	95%	89%	89%	89%	91%	93%	95%	93%
前年度1日平均(名)	48.1	51.2	54.6	55.9	54.4	55.9	59.9	59.7	59.7	58.4	58.8	57.1	56.1	
入所者数	4	0	0	2	2	0	2	1	2	1	6	1	21	
退所者数	0	0	0	3	1	5	0	1	2	3	2	2	19	

図1 介護老人福祉施設の利用者数の推移



## (2) 利用者の生活の状況

令和5年度の事業計画の重点項目「一人ひとりに寄り添った介護の充実を図る」に基づき、個別ケアの充実に取り組んだ。担当者会議などで、より良い生活を送るために何が必要で何を優先すべきかということに重点を置いて、個別処遇計画の見直しを行った。

施設内の生活では、新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」に移行後も感染拡大防止に努めながら、近隣への散策や買い物など外出行事や夏祭り（8月）やクリスマス会（12月）の開催など季節を感じていただける行事が実施できた。利用者も非常に喜ばれていた。

表2 年間行事

4月	外出（近隣散策、買い物）
5月	外出（近隣散策、買い物）、おやつ作り（ベビーカステラ）
6月	外出（近隣散策、買い物）、おやつ作り（ところてん）
7月	おやつ作り（七夕ゼリーポンチ）
8月	夏祭り
9月	敬老祝賀式
10月	おやつ作り（たこ焼き）
11月	ハロウィンパーティー、メイクセラピー
12月	クリスマス会、メイクセラピー
1月	書初め、おやつ作り（プリンアラモード）、メイクセラピー
2月	節分お楽しみ会、メイクセラピー
3月	買い物行事

表3 利用者の状況（R6.3.31現在）

平均年齢		要介護度状況			
男	87.2歳	要介護1	0	要介護4	25
女	89.2歳	要介護2	1	要介護5	15
	88.9歳	要介護3	17	平均	4

### （3）健康管理について

定期的な健康管理として、毎年4月に一般健康診断を実施。何か異常があれば追加検査を行い、嘱託医より家族に結果の説明や今後の治療方針を相談・決定するなどを繰り返し行った。

NST会議（栄養サポートチーム会議）を継続し、特養利用者60名の既往歴に基づいた追跡検査などを行い、健康管理を行うことで再発予防などに取り組んだ。

入院者数について、延べ27名、実人数24名であった。（入院病名として骨折・酸素濃度低下、肺炎など）年間月平均4.7名入院しているが、9月と10月は6名と稼働率に影響している。退所者については、19名（入院中死亡者9名、施設内看取り対象者6名、長期間入院加療対象者2名、体調急変2名）であった。入院日数は前年と比べ100日を超える月が5回と増加している。

感染対策としては、地域での感染症情報の収集、施設内の状況把握、感染症の知識を職員で共有するなど、感染症対策委員会を中心に行ってきた。新型コロナウイルス感染症については、1月にクラスターが発生し、終息まで1箇月を要したが、他フロアに拡がることなく、感染拡大防止対策の徹底が実践できた。今後も継続的な対策会議の開催ならびに協力医療機関など関係機関との連携を密に図り、感染予防の徹底に努めていきたい。

看取り介護について、毎月の看取り介護委員会の開催、指針の見直し点検や職員にむけての研

修（苑外・苑内）を行った。令和5年度は、6名の看取り介護を行ったが、令和6年度もさらなる体制の構築に取り組んでいきたい。

#### （4）栄養管理について

食事の提供では、給与栄養目標量と実績（カッコ内）は、熱量1,456kcal/日(1,514kcal/日)たんぱく質57.1g/日(57.3g/日)であった。利用者個々の身体状況、嗜好に配慮した食事提供ができた。また、嚥下・咀嚼機能の変化、疾病状況の変化に添い、迅速に対応できるよう給食委託業者と調整を行った。

厨房内の衛生管理については、委託業者内研修や情報提供などで、感染予防に努め対応できた。これからも衛生面や環境整備に取り組み、感染予防に努めていきたい。

栄養ケアマネジメントでは、個々の栄養管理について、多職種で構成される担当者会議において連携を深め、食種の経緯・体重変化・血液データ・栄養状態のレベル、栄養ケアの経過記録などを基に今後の改善目標を設定し、一人ひとりの状況変化に対し、健康維持・疾病予防・栄養改善のための具体的な提供方法を検討し実施した。又、摂食・嚥下障害対象者には、多職種による協働で口から食べる支援を、経口維持計画を立て実施することで、さらに栄養管理を強化していくことができた。

表4 <お誕生日食・行事食> 以下の他、選択食・おやつ作りなど月2回実施した。

行事名	実施日	内容
4月お誕生日食	4月22日	寿司盛り合わせ
節句の日	5月5日	ちらし寿司、鯛の潮汁、柏餅
5月お誕生日食	5月23日	松花堂弁当(豆ごはんのおにぎり、むつの幽庵焼き等)
6月お誕生日	6月22日	洋食ランチ(サーモンのソテーもしくは煮込みハンバーグ)
7月行事食	7月7日	七夕そうめん
7月お誕生日食・土用の丑	7月29日	鰻重弁当
8月お誕生日会	8月21日	牛ちらし寿司膳
9月お誕生日会・敬老祝賀式	9月19日	お祝い膳(赤飯、鯛の塩焼き、天ぷら)
10月お誕生日会	10月25日	松花堂弁当(きのこごはん、豚ロースと舞茸の朴葉焼き)
11月お誕生日会	11月26日	寿司握り盛り合わせ
クリスマスパーティー	1月1日	クリスマスランチ
お正月	1月24日	お節料理
1月お誕生日会	1月25日	海鮮丼
節分の日	2月3日	巻き寿司、いなり寿司等
2月お誕生日会	2月20日	松花堂弁当(蟹と生姜の炊き込みご飯、刺身等)
お雛様の日	3月1日	五目散らし寿司、炊き物
3月お誕生日会	3月21日	すき焼き御膳

## 2 ショートステイ（短期入所生活介護、介護予防短期入所生活介護） 定員10名

利用者数は、表4のとおりである。年間のベッド稼働率は77.9%(前年比-1.4%) 延べ利用者数は2,803名(同-93名)であった。

稼働率については、1月の新型コロナウイルス集団発生の影響で、受け入れを中止したこともあり、1月は前年比マイナス26%となったことやショートステイ利用者が、急遽、在宅介護者不在になるなど特養施設へ入所されたことが、前年比較マイナスの大きな要因となっている。今後もケアマネジャーを中心に、近隣市町村の居宅介護支援事業所および医療機関などへの利用者獲得の働きかけを続けながら、利用者数増加に繋げていきたい。

表5 短期入所生活介護利用者の状況

ショート		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
令和5年度	利用者数実績	229	241	238	284	257	237	222	224	262	189	194	226	2,803
	稼働日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	29	31	366
	1日平均(名)	7.6	7.8	7.9	9.2	8.3	7.9	7.2	7.5	8.5	6.1	6.7	7.3	7.7
	稼働率%	76%	78%	79%	92%	83%	79%	72%	75%	85%	61%	69%	73%	77%
前年度1日平均(名)		5.8	8.4	8.3	9.0	7.1	7.7	8.0	8.6	7.6	8.5	8.7	7.5	7.9

図2 短期入所生活介護利用者数の推移



3 デイサービスセンター（通所介護、第1号通所型サービス） 定員25名  
 定員5名  
 9月以降定員30名

(1) 利用状況

【7～8時間】 年間延べ利用者数5,993名（前年比+1,392名）、1日当たりの平均利用者数は、19.5名（前年比+4.5名）であった。このうち、通所型サービスの利用者は、年間で919名（前年比+351名）で総利用者数の15.3%であった。

【3～4時間】 年間延べ利用者数749名（前年比+12名）、1日当たりの平均利用者数は、2.8名（前年比-0.2名）であった。このうち、通所型サービスの利用者は、年間402名（前年比+203名）で総利用者数の53.7%であった。

表6 通所介護事業所の利用状況

【7～8時間デイ】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
令和5年度	延利用者数	394	465	463	484	490	496	525	528	547	502	508	591	5993名
	稼働日数	25	27	26	26	26	26	26	26	25	24	24	26	307日
	1日平均	15.8	17.2	17.8	18.6	18.8	19.1	20.2	20.3	21.9	20.9	21.2	22.7	19.5名
	稼働率(%)	63.0	68.9	71.2	74.5	75.4	76.3	80.8	81.2	87.5	83.7	84.7	90.9	78.1%
令和4年度 1日平均		14.3	13.5	14.4	13.3	11.1	15.4	16.4	15.4	16.0	16.6	16.9	16.4	15.0名

【3～4時間デイ】

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
令和5年度	延利用者数	83	64	82	68	61	71	67	54	43	43	50	63	749名
	稼働日数	25	27	26	25	26	26	26	26	25	24	24	26	306日
	1日平均	3.3	2.4	3.2	2.7	2.3	2.7	2.6	2.1	1.7	1.8	2.1	2.4	2.8名
	稼働率(%)	66.4	47.4	63.1	54.4	46.9	54.6	51.5	41.5	34.4	35.8	41.7	48.5	49.0%
令和4年度 1日平均		2.3	2.7	2.5	2.5	2.6	3.6	3.8	3.7	3.4	2.9	2.8	3.5	3.0名

図3 通所介護利用者の推移

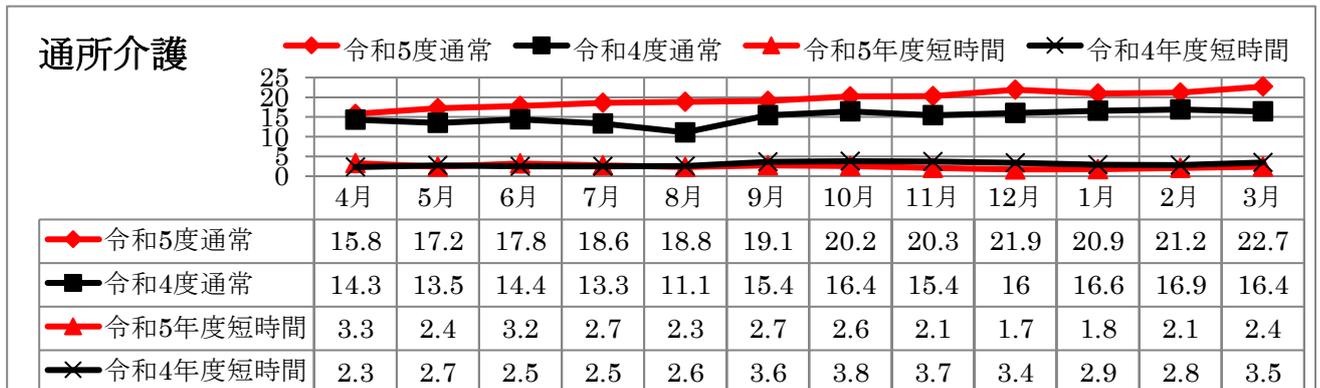


表7 利用者の状況（介護度）

	事業対象者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	介護度平均
男性	2名	0名	7名	5名	7名	7名	2名	0名	1.9
女性	0名	3名	7名	10名	16名	13名	5名	2名	2.1
計	2名	3名	14名	15名	23名	20名	7名	2名	2.0

表8 年間行事

4月	おやつ作り:桜もち
5月	外出行事:さくらであい館、野菜の苗植え
6月	お茶会
7月	野菜収穫
8月	夏祭り
9月	外出行事:イオン買物
10月	アルバム作り
11月	紅葉見学
12月	クリスマス会
1月	新年会
2月	おやつ作り:おはぎ
3月	外出行事:桜見

## (2) 重点項目

### 1) 稼働率の向上及び増収について

居宅への定期的な訪問や紹介から利用へのスムーズな対応、また9月に1単位制に変更したことで、サービス提供時間の選択幅が広がり、稼働率の増加につなげることができた。

### 2) 利用者、家族の立場に立ったケアの提供について

新型コロナウイルス感染症「5類感染症」へ移行後も、感染対策の徹底に努めながら、外出行事の実施など利用者の満足度を高める取り組みができた。また、毎月のサービス向上委員会で、職員の言葉使いなど接遇面の質向上や虐待防止への取り組みを行った。

### 3) 機能訓練の充実について

在宅での状態を確認しながら、協力医療機関の理学療法士との協議の中で訓練内容の検討や実施状況など評価を行うことができた。また、エアロバイクなど運動機器の積極的な導入・活用など訓練メニューの充実を図ることができた。

#### 4) 地域とのつながりについて

畑を地域に開放し、行政や地域住民と協力し、野菜の苗植えや収穫など交流の場を持つことができた。

#### 5) 安心、安全なサービス提供について

毎月の事故防止対策委員会や身体拘束廃止委員会において、ヒヤリハット事例などの検証を行うことができた。

#### 6) 職員の育成について

定例会議や各種委員会（事故防止、サービス向上、感染症対策、虐待防止、身体拘束廃止）の中で、研修や勉強会を実施し、職員の資質やサービス向上の取り組みを行うことができた。

#### 7) 共生型サービスの導入について

導入するには至っていないが、町社協主催の障がい福祉理解促進研修への参加など行政や町内障がい支援事業所及び相談支援員などと連携を図ることができた。今後も共生型サービス導入に向けた取り組みを推進します。

## 4 ケアハウス

定員 15名

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の5類移行後から外出や家族との交流機会などが増加し、生活の活性化に繋がっている。引き続き、感染症防止対策に配慮は必要であるが、日常を取り戻しつつある。介護保険要介護度区分においては、全入居者が要介護認定（平均要介護度：1.8）を受けている。介護保険外を含めた各種サービスとの連携を深めながら、可能な限り自立した生活が送れるサポート体制の充実が、今後も一層必要である。

### （1）入退居者の状況

令和5年度は、前年度末に退居者があり、4月に入居者1名あったのみで、その他の入退居者はなかった。平均年齢は、87.1歳（男性：73歳、女性：89.5歳）であり、高年齢化が顕著となっている。令和5年度は、年度内の1月に65歳になり、障がい支援サービスから介護保険サービスへ移行する入居者がいたため、年度当初より混乱しないように、事前に担当者間で連携を図ることができた。ケアハウス内で安心できる居住環境を確保できていたこともあり、スムーズにサービス移行が行え、安心して過ごしていただくことができた。

表9 入退居者の状況

入退居者数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
R5年度入居	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R4年度入居	0	0	2	0	1	1	0	0	0	0	0	0
R5年度退居	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R4年度退居	0	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1

表10 要介護度区分および介護保険サービス利用状況

要介護度区分			サービス利用実数		
	R4	R5	サービス内容	R4	R5
自立	1	0	訪問介護	6	7
要支援1	0	0	訪問看護	2	2
要支援2	0	0	通所介護	3	3
要介護1	4	4	福祉用具貸与	13	13
要介護2	7	8	訪問リハビリ	4	2
要介護3	2	2	居宅療養管理指導	1	1
平均要介護度	1.7	1.9	小規模多機能施設	8	7
			在籍者数	14	14

(2) 健康管理について

年1回の特定健診を受診し結果を主治医へ報告した。インフルエンザやコロナウイルスの予防接種を行い、感染症防止のため手洗いの励行や消毒ならびに換気に努めた。又、食事摂取量の変化は、健康のバロメーターと考え、極端に摂取量が少ない日が継続していないか観察を行い、変化のあった場合は病院やケアマネジャーに情報提供するなど、異常の早期発見や対応に繋がった。

(3) 行事について

外出の機会は増加したが、他サービス利用時に新型コロナウイルス感染症の濃厚接触者となるなどが頻繁に発生したこともあり、屋内で行う行事は、計画とおりの実施ができなかった。今後も入居者が、生きがいを持ち、楽しく日常生活を過ごしていただけるように、町内和菓子店や移動スーパーの定期訪問など、定期的な買い物ができる環境を保つことができた。

表11 年間行事一覧表 ※毎週水曜日 移動スーパー（とくし丸）訪問販売

月	内 容	月	内 容
4月	和菓子訪問販売・桜お花見	10月	和菓子訪問販売
5月	和菓子訪問販売・懇談会	11月	和菓子訪問販売・秋祭り・懇談会
6月	和菓子訪問販売	12月	和菓子訪問販売・クリスマス会
7月	和菓子訪問販売・懇談会・法人全体水害避難訓練	1月	和菓子訪問販売・懇談会
8月	和菓子訪問販売	2月	和菓子訪問販売
9月	和菓子訪問販売・懇談会	3月	和菓子訪問販売・懇談会・ケアハウス単独避難訓練

## 5 ヘルパーステーション（訪問介護、訪問型サービス）

### （1）利用状況

新型コロナウイルス感染症の5類移行後、訪問介護員の陽性や利用者の陽性に伴う濃厚接触者となることはあったが、利用者に対する影響はなく支援を継続することができた。

令和5年度の新規利用者については、月平均4名程であり、一定数の新規利用者は獲得できた。利用終了者数は、33名（前年比-5名）であり、入院や一時的な利用休止、施設入所や逝去者数の増加および新規依頼（12月には1箇月間で10名）はあるが訪問介護員の退職や体調不良などが重なり、担当できる訪問介護員の調整ができずに受け入れを断らざるを得ない状況が、数名生じたことも訪問回数の減少（前年比-383回）に繋がっている。

表12 ヘルパー派遣利用者数

（単位：名）

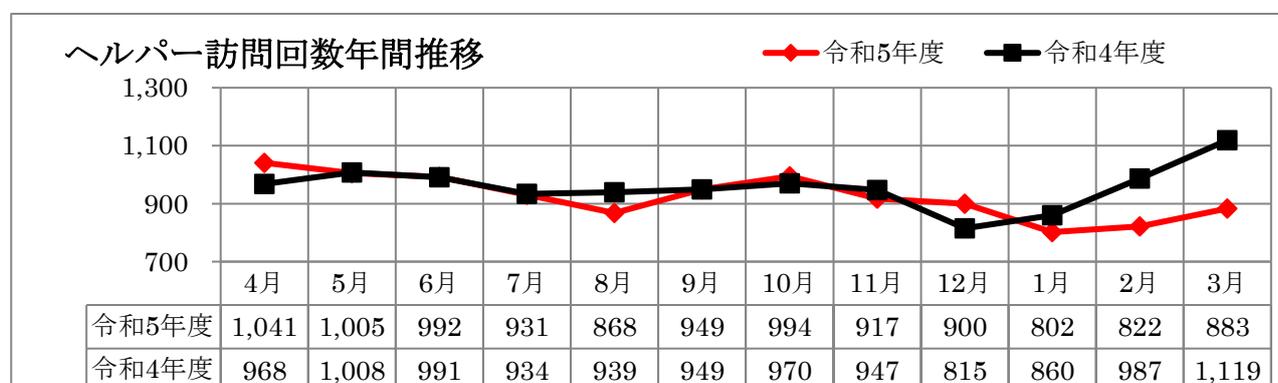
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用者数(介護)	74	70	76	77	76	76	78	78	71	70	62	67	875
利用者数(予防)	28	29	26	26	27	27	25	29	31	29	28	27	332
合計	102	99	102	103	103	103	103	107	102	99	90	94	1,207

表13 ヘルパー訪問回数と前年度比較

（単位：回）

訪問回数	内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	身体介護	592	535	494	437	390	436	446	397	394	328	344	391	5,184
	身体生活	117	120	169	171	146	120	124	118	115	109	114	132	1,555
	生活援助	332	350	329	323	332	393	424	402	391	365	364	360	4,365
令和5年度	1,041	1,005	992	931	868	949	994	917	900	802	822	883	11,104	
令和4年度	968	1,008	991	934	939	949	970	947	815	860	987	1,119	11,487	
増減	73	-3	1	-3	-71	0	24	-30	85	-58	-165	-236	-383	

図4 ヘルパー累計訪問回数



## (2) 重点項目

個別サービスの向上については、在宅での看取り介護者が数名あり、その中でも初めて喀痰の吸引を目的とする援助の依頼があり、研修修了者がいたことで、速やかに事業所登録を行い受け入れることができた。

職員体制の充実については、訪問介護員の高齢化や体調不良並びに所得制限など、稼働可能な時間が短縮されたことで、サービス提供責任者による訪問回数の増加や通院介助で長時間訪問の対応が求められるケースが多くあった。引き続き、訪問介護員の確保は急務である。

訪問介護員の研修については、集合型で実施することにより、訪問介護員同士のコミュニケーションが図れ、支援の内容の確認や充実にも繋げることができ、質の向上に繋がった。月に3～4回に分けて開催するなど全員参加が可能となるように調整を行った。今後も知識や実技の向上に繋がるよう、外部講師の依頼など研修内容を充実させ、全体のスキルアップを図っていく。

表14 研修内容

日 時		事業所内研修	外部研修
4月	随時	緊急時対応	
5月	随時	認知症について	
6月	随時	食中毒について	
7月	随時	脱水・熱中症について	
8月	随時	ポジショニングについて	
9月	随時	接遇について	
10月	随時	法令順守について	
11月	随時	感染症について	認知症介護実践者研修
12月	随時	意見交換会	認知症介護実践者研修
1月	随時	ノロウイルスについて	
2月	随時	ケース検討会議	認知症介護実践者研修
3月	随時	ヒヤリハットまとめ	

## 6 居宅介護支援事業所

### (1) 利用状況

給付管理件数は、介護支援専門員の増員による月220件を目標にしていたが、長期にわたる入院や近隣市町村の入所施設への入所者数が増加するなど、月平均167件となり、目標に達することはできなかった。給付管理票提出総件数は、2008件（前年比+561件）と増加した。予防給付件数については、月平均30件と昨年度と比較し、大きな変動はなかった。

表15 <ケアプラン作成実績>

(単位:件)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和5年度	148	160	160	172	168	166	174	170	170	173	168	179	2,008
令和4年度	108	121	122	125	123	120	119	123	127	119	119	121	1,447

<要介護度別ケアプラン作成実績>

(単位:件)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
要介護1	令和5年度	42	44	41	37	37	36	36	33	39	39	38	44	466	
	令和4年度	23	25	28	33	36	35	35	36	35	34	35	38	393	
要介護2	令和5年度	39	46	46	54	54	57	58	53	52	52	56	61	628	
	令和4年度	41	46	46	43	41	42	45	42	47	43	40	42	518	
要介護3	令和5年度	18	18	23	22	20	23	30	35	29	29	25	26	298	
	令和4年度	33	35	36	36	31	30	25	28	25	25	20	21	345	
要介護4	令和5年度	16	15	13	16	14	11	13	11	14	14	11	10	158	
	令和4年度	7	9	7	9	11	9	10	11	13	11	16	12	125	
要介護5	令和5年度	7	6	7	6	8	7	5	6	5	5	4	4	70	
	令和4年度	4	6	5	4	4	4	4	5	7	6	8	8	65	
居宅介護支援介護 給付費別(年間総数)		令和5年度	介護度 1~2				1,094		介護度 3~5			526		合計	1,620
		令和4年度	介護度 1~2				911		介護度 3~5			535		合計	1,446

図5 ケアプラン作成実績

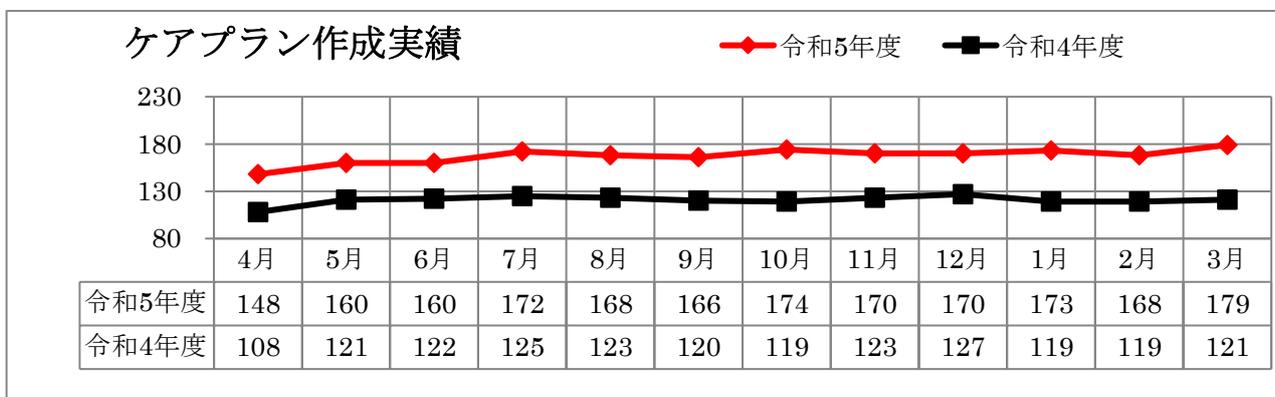
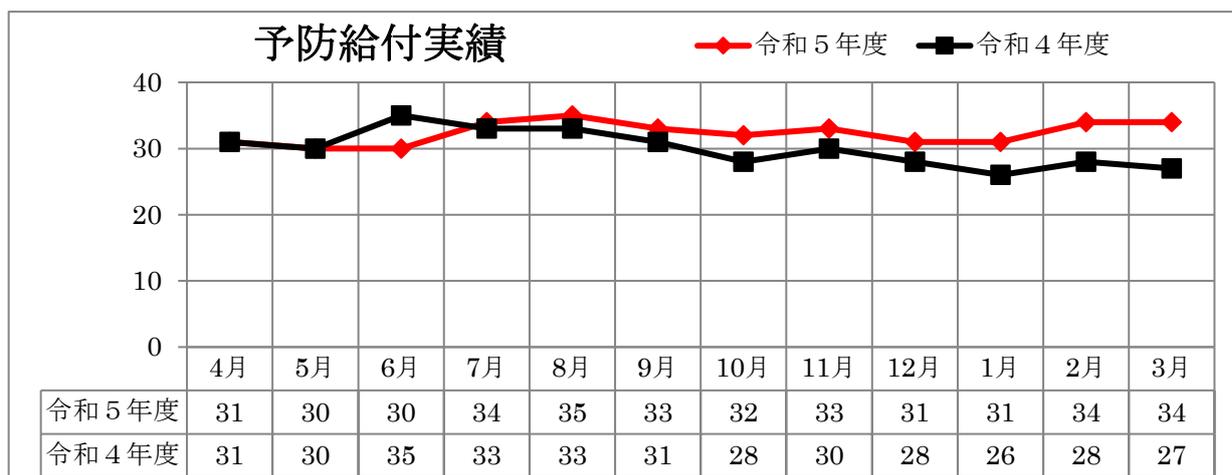


表16 予防給付(委託)実績

(単位:件)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
要支援	令和5年度	31	30	30	34	35	33	32	33	31	31	34	34	388
	令和4年度	31	30	35	33	33	31	28	30	28	26	28	27	360

図6 予防給付実績



## (2) 重点項目

新規利用者の獲得においては、直接来所での相談や隣接市を含む地域包括支援センターからの依頼が多くあり、積極的に対応を行うことで前年度を上回る新規依頼件数（月平均7.9件）が獲得できた。

介護支援業務については、事業所内の定例会議を通し、利用者数が増加している中でも、こまめに事例の振り返りや確認を行うことで、利用者の情報や支援内容を共有し、事業所全体で支援を行う体制を充実させることができた。今後もよりポイントを絞った内容となるように会議の内容を充実させ継続的に取り組んでいきたい。

利用者だけでなく家族支援が必要なケースも急増しており、幅広い知識と柔軟な対応が必要となっている中、特定事業所加算算定事業所として、各種研修の積極的な参加と地域包括支援センターと積極的に情報共有しながら、連携の強化を図ることができた。今後も質の高いケアマネジメントが実践できるように研修や事例検討などの充実を図っていきたい。

## 7 研修一覧

表 1 7 施設外研修一覧

実施主体	研修名
京都府	介護サービス事業者等集団指導、認知症介護基礎研修、認知症介護実践者等養成研修、認知症介護実践リーダー研修、民間社会福祉施設長研修会、京都府認定調査員初任者研修、地域共生社会実現サポート事業研修会
京都府山城北保健所	高齢者等入所施設における感染症予防研修会、地域高齢者等栄養管理支援のための連携推進研修会
京都府・京都労働局・職業安定所	企業対象人権研修会
京都府高齢者権利擁護支援センター	障害者・高齢者虐待防止に向けて施設・事業所に求められる体制と身体拘束・行動制限の廃止を考える
京都府老人福祉施設協議会	総会・施設長研修会、山城北ブロック施設長会・研修会、看取り介護導入研修、施設看取り専門研修、
京都府社会福祉協議会	社会福祉法人役員・施設長等運営管理職員研修、老人福祉施設看護職・介護職等研修（高齢者の終末期・看取り）、言葉による抑制～スピーチロック～防止研修、
京都府地域包括ケア推進機構	介護施設における看取りケア研修
京都府公安委員会	安全運転管理者等に対する講習
京都認知症総合センター	認知症ケア～介護とは人生を看る仕事、介護現場の思い～
山城北圏域地域リハビリテーション支援センター	看護職・介護職のためのリハビリテーション ステップアップ研修
久御山町	町内介護支援専門員研修
久御山町社会福祉協議会	災害ボランティアセンター運用研修会、プライバシー保護等について、感染症の基礎を学ぶ～予防と対処の基本研修～、障がい者当事者の声を聞く～共感と理解のための研修～、高齢者虐待の対応・防止
久御山町消防本部	防火管理研修会、普通救命講習、
全国社会福祉法人経営青年会	組織・人材マネジメント委員会セミナー、定例研修会・勉強会（第1回・第2回）

京都府看護協会	看護師Ⅱ職能研修「STOP誤嚥性肺炎～最期まで食べたいを支援するために～」
京都府介護支援専門員会	介護支援専門員更新研修（課程Ⅰ・課程Ⅱ）、主任介護支援専門員研修、主任介護支援専門員更新研修、生活支援記録法（F-SOAPI）実践の可視化
京都府介護支援専門員会山城ブロック研修会	ケアマネのためのピアサポートの場
(株) 日本経営	介護事業の財務状況公表制度への備え
(株) パラマウントベッド	高齢者施設で取り組む褥瘡管理、効果的な栄養ケアのためにベッドサイドでみること・できること
ダイエッティシヤン ジョブ	管理栄養士のスキルアップ講座（献立作成講座A）
(株) エクサホームケア	収益向上につながるケアマネ営業攻略（デイサービス）

表18 施設内全体研修一覧

実施日	内 容	講 師など	参加者数
5月15日	看取り介護研修～エンゼルケアから看取りを考える～	看取り介護委員会／特養看護師	22名
6月19日	高齢者施設で取り組む褥瘡管理	国立循環器病研究センター 皮膚・排泄ケア 特定認定看護師 中屋貴子 氏（外部）	27名
7月24日	褥瘡対策の基本（ポジショニング）	山城北圏域地域リハビリテーション支援センター 理学療法士 大倉一紀 氏（外部）	32名
8月21日	身体拘束（利用者体験を通じて）	特養身体拘束廃止委員会	25名
10月26日	コロナウイルス感染症の施設内クラスターを振り返る	特養感染症対策委員会	28名
11月20日	メンタルヘルス～ハンドマッサージ～	特養看護師	33名
12月18日	感染症対策（ノロウイルス）	特養感染症対策委員会	28名
1月15日	身体拘束～事例検討～	特養身体拘束廃止委員会	31名
2月19日	職場環境を考える～福利厚生の話～	研修企画委員会／施設長	34名
3月	法令遵守研修会（書面開催）	研修企画委員会	全職員
その他	学研ナーシングサポート、介護サポートのEラーニング形式	学研ナーシングサポート、介護サポート	全職員

## 8 危機管理

### 【事故及び苦情の状況】

事故の未然防止対策として、「ヒヤリハット報告書」の様式を事業所間で統一し、発生状況やリスク回避の対策共有など事故発生の抑制に効果があった。分類基準別では、軽度の割合が大きく全体の58.3%（14件/24件）を占めている。主な内容は、転倒・転落後の医療機関受診（骨折等外傷なし）によるものであり、重度の内容も転倒による骨折事故が多かった。また、新型コロナウイルスの施設内クラスター発生時期には、感染拡大防止対策でひっ迫した状況となり、ヒヤリハット事例の件数が少なかった。職員の意識によって「気づき」の件数に大きく影響することや見守り体制が不十分になることで、事故の発見が遅れることがあったため、今後も見守り機器の導入など体制の充実を図り、取り組みの強化を図っていく。

要望及び苦情については、9件（前年度比－15件）であった。件数は減少しているが、ケアの内容や接遇に関する内容であり、各事業で再発防止策を検討し、法人全体で共有を図り、再発防止に努めた。事故や要望及び苦情の発生状況については、下表のとおりである。

表 1.9 事故の状況

単位：件

事業所	年度	致命的	重度	中等度	軽度	合計	ヒヤリハット
特 養	R5年度	0	6	4	11	21	580
	R4年度	0	4	10	0	14	328
短期入所	R5年度	0	0	1	2	3	48
	R4年度	0	1	3	1	5	64
ケアハウス	R5年度	0	0	0	0	0	0
	R4年度	0	0	0	0	0	3
通所介護	R5年度	0	0	0	1	1	41
	R4年度	0	0	0	0	0	30
訪問介護	R5年度	0	0	0	0	0	0
	R4年度	0	0	0	0	0	11
居宅介護支援	R5年度	0	0	0	0	0	0
	R4年度	0	0	2	0	2	0
合 計	R5年度	0	6	5	14	25	669
	R4年度	0	5	15	1	21	436

(参考) 分類基準 (利用者への影響レベル)

軽 度：事故により利用者に変化が生じ、一時的な観察が必要となった場合

中等度：事故のため、一時的な医療的対応（治療）が必要となった場合

重 度：事故のため、継続的な医療的対応（治療）が必要となった場合

致命的：事故が生命を脅かすことに繋がった場合（繋がると予測できる場合）

表 2 0 要望及び苦情の状況

単位 (件)

事業所	ケアの内容に関すること	個人の嗜好・選択に関すること	利用料に関すること	接遇に関すること	その他
法人	0	0	0	0	0
特養	0	0	0	0	1
短期入所	1	0	0	0	0
ケアハウス	0	0	0	0	0
通所介護	5	0	0	0	0
訪問介護	0	0	0	0	0
居宅介護支援	2	0	0	0	0

## 【防災対策】

防災対策については、消防総合避難訓練を10月と3月に実施した。地元自治会長にも参加要請するが、施設内でコロナクラスター発生、終息宣言直後であったため不参加となった。「非常災害時に関する覚書」の内容を確認し合うなど引き続きの協力体制を確認した。避難訓練の内容は、下表のとおりである。又、令和5年度は、5年に1度の大規模な久御山町総合防災訓練が実施され、南海トラフ巨大地震発生を想定した町内地域の防災訓練に参加した。

表 2 1 施設内での災害避難訓練の実施状況

実施日	内 容	実施事業所	立会い及び指導
5月17日	消防災害避難訓練（夜間想定）	ケアハウス単独	担当職員
7月20日	水害想定避難訓練	特養、デイサービス	久御山町
10月31日	消防災害避難訓練（夜間想定）	特養、ケアハウス	久御山町消防本部
3月21日	消防災害避難訓練（夜間想定）	特養、ケアハウス	久御山町消防本部

## 【職員の健康管理】

定期健康診断（9月）、腰痛検診（9月～10月、2月～3月）、夜間従事者健康診断（2月）、採用時健康診断（随時）を実施。メンタルヘルスについては、毎月の安全衛生委員会や産業医のミニ講座などで相談窓口の周知や法人職員全体研修内でストレス解消、ストレスとの上手な付き合い方やハンドマッサージなどの研修を実施した。また、職員意見箱の設置や定期職員面談を年1回実施し、働きやすい職場づくりや働き方改革の推進に取り組み、有給休暇消化率を定期的に確認するなど適正な労務管理に努めた。